AUGUST
オーガスト
オフィシャルハンドブック
2013年春号
大図書館の羊飼い
a good librarian like a good shepherd

ISBN-130505

P R E F A C E ― ま え が き

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。
何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

『大図書館の羊飼い』を1月25日に発売してから、開発室にはご意見・ご感想がたくさん届いております。
今回は葉書よりもWeb経由でお送り下さっているユーザー様が多くなりました。
もちろんどちらも一通一通スタッフが拝読しますので、もしまだお送り頂いていない方がいらっしゃいましたら、
是非ご意見ご感想をお寄せ下さい。
（Web経由の場合は、トップページ>ユーザー登録>ソフトウェアユーザー登録　にてお願いします）

また、「メールインフォメーションサービス」というものを始めてみました。
これは通販の受付開始などのタイミングで、年に数回ほど、メールにてお知らせを送るというものです。
オーガストのWebサイトを毎日のようにご覧になっている方には必要無いお知らせではありますが、Webサイトを見るのは
週に一回、月に数回という方は、登録して頂くと重要なお知らせを見逃す恐れが減るかもしれません。

こちらもオーガストのHPのトップページから「メールインフォメーションサービス」のボタンを押して頂ければすぐに登録が可能です。
どうぞご利用下さい。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、
オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2013年春　オーガスト/ARIA 拝

CONTENTS

3 …… 『大図書館の羊飼い』Short Story 歴史に名前を刻む日

8 …… オーガスト最新作情報

10 …… スタッフ対談

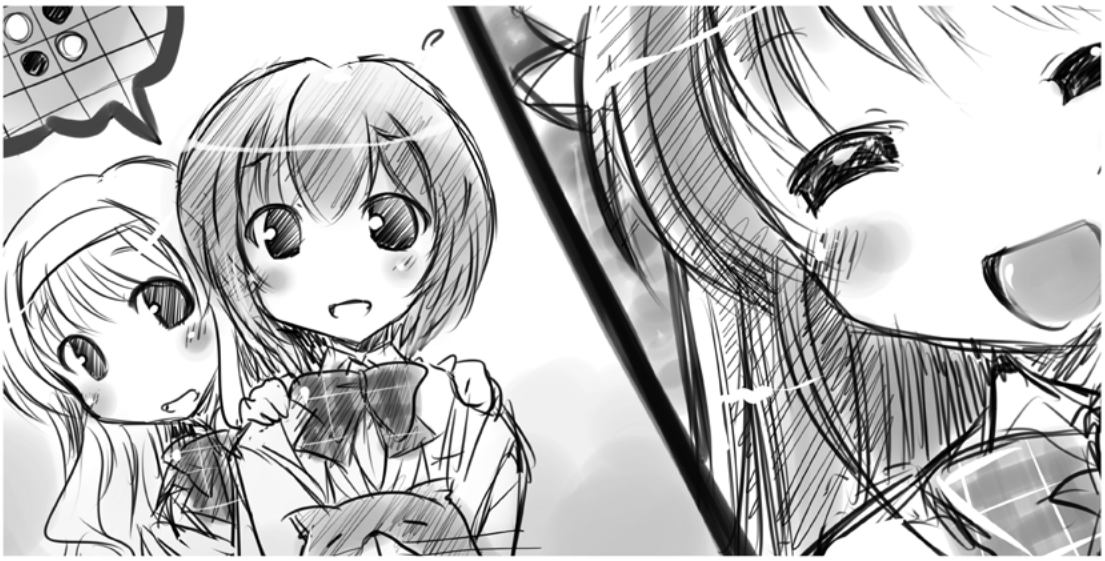
11 …… あとがき

大図書館の羊飼い　ショートストーリー

歴史に名前を刻む日

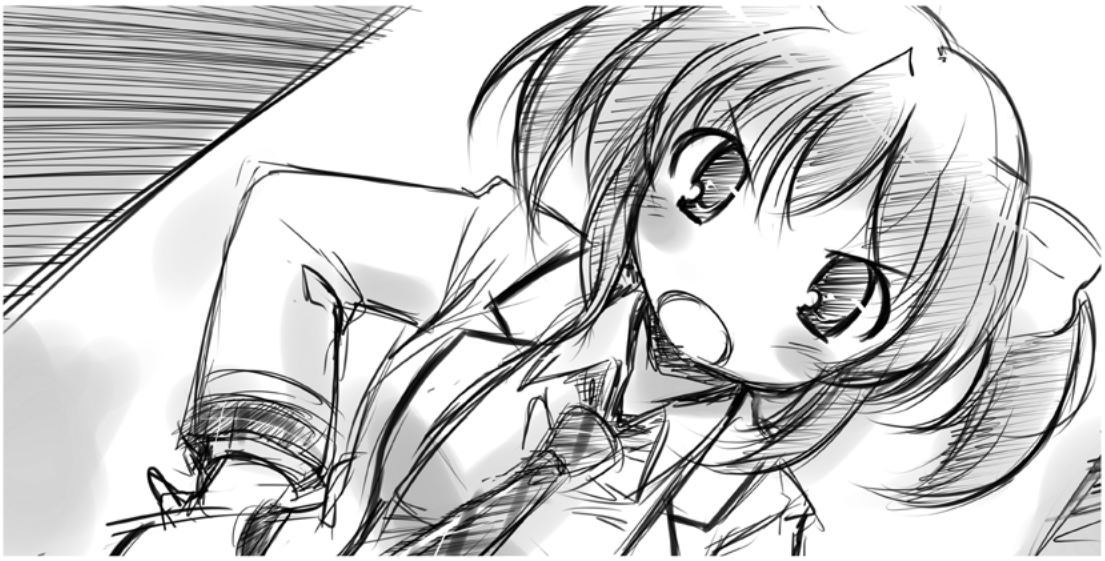
榊原　拓

「なあ筧、チャトランガって知っているか？」
「聞いたことはあるような気がするが……ちょっと思い出せない」
昼休み、桜庭と俺しかいない部室。
いつものように図書部宛のメールをチェックしている桜庭が、俺に話を振ってきた。
「チャトランガ部というところから、図書部に依頼が来てるんだ」
「ボードゲームか何かだっけ？」
「私も今調べたんだが、将棋やチェスの元になったインドのゲームらしい」
「そんな部があるんだなあ」
「で、依頼内容だが……団体戦の人数が足りないので助っ人になってくれないか、だそうだ」
団体戦が開催されているのも驚きだが、何より競技がマイナーすぎる。
メールによると、現在部員は三人しかおらず、団体戦には五人が必要ということらしい。
「筧はチャトランガのルールを……知ってるわけないよな」
「そりゃまあ。桜庭は？」
「同じだ」
「助っ人を頼むなら、図書部より将棋部とかチェス部に行った方がいいよな。多分」
「これまではそうしてたらしいんだが、今年は大会の日程が重なったとかで断られてるそうだ」
「そっか……」
放課後。
「うん。力になってあげたいよね！」
という、屈託のない笑顔と共に発せられた白崎部長の言葉に従い、図書部から二人の助っ人を出すことになった。
「さて、じゃあ誰が助っ人になるかだが」
「将棋かチェスはできた方がいいだろうなあ」
どちらかのルールを知っている者に挙手してもらったところ、一発で俺と桜庭に決まった。
「佳奈すけあたりは、やったことないのか？」
「オセロなら少々……」
「私も同じく」
後輩二人は戦力外。
「高峰なんかお年寄り相手に将棋指してるイメージもあるんだが」
「俺は囲碁派なんだわ」
そう来たか。
「じゃあ、玉藻ちゃんと筧くん、お願いね」
「仕方ないな」
「ちなみに白崎はできないの？」
「ははは……応援してます」
そんなことだろうと思った。



「では筧。早速、チャトランガ部に挨拶しに行こうじゃないか」
依頼を受ける旨を記したメールを送信し、桜庭が席を立つ。
俺もその後に続いた。

「ありがとう、助かるっ！」
チャトランガ部の、少し小肥りの部長にアツい握手をされ、部室に通される。
ずらりと並ぶ、控えめな大きさのトロフィーや賞状。
そこで俺と桜庭は伝統と実績を一通り語られ、他の部員を紹介され、大会の日程を教えてもらった。
また、俺と桜庭を戦力として考えていないとはいえ、一応ルールくらいは知っておかないと対戦相手にも失礼だということで、チャトランガのルールブックと駒・盤のセット、それにチェスクロックを貸してもらった。
チャトランガ部から帰ってくると、他の部員は皆それぞれが担当している依頼先へ行っており、部室には誰も居なくなっていた。
俺と桜庭は、一応盤の上に駒を並べてみる。
「大会まで半月か……。少しは二人で練習しておく？」
「そうだな。将棋やチェスと同系統なら、それらしい定石もあるのだろう。助っ人とはいえ、一手目で素人だとバレるのはさすがに私も恥ずかしい」
借りてきたルールブックはプリントアウトした紙をホチキスで留めたもので、後半はチャトランガ部に代々受け継がれてきた戦法などが書かれていた。
「二人制と四人制があるんだな」
「私達が参加する団体戦は二人制のようだ」
「試しに一局やってみるか」
「ああ、そうしよう」
……互いに駒の動かし方を確かめながら、たどたどしい一局を指してみる。
中盤に次々と駒を失った俺だったが、最後の逆襲が成功。
桜庭の王が倒れた。
「く……っ！」
桜庭が、唇を噛み締める。
「まあこんなもんか」
「中盤までは上手く行ってたんだ！」
「ああ、そうだったな」
「……もう一局、練習しておこうじゃないか」
「構わないけど」
ドスの利いた声で言われては、断りにくい。
俺と桜庭が駒を動かす音だけが、静かな部室に響く。
今度は、互いにルールブックの後半に書かれていた戦法などを試しつつ駒を動かしていった。
終盤まで桜庭に押されまくる俺。
だが、あと一歩というところで桜庭が致命的なミスを犯し、そこにつけ込んだ俺が再び勝利を収めた。
「くああーっ！！」
「熱戦だったな」
「今のは勝てていたのに！！」



ガチャ
「図書部うっさいです」
図書委員の小太刀が、ノックの返事も待たずに部室に怒鳴り込んでくる。
「すまん小太刀」
「何してんの？　チェス？」
「話せば長くなるが似たようなもんだ」
「ふーん。どうでもいいけど静かにしてよね。負けて騒いでも強くなんてなれないじゃん」
「ぐっ……」
小太刀が去り、再び部室に訪れる静寂。
「じゃあ、そろそろ暗くなってきたし、今日はこのくらいで……」
「いや、もう一局だけ」
「そんなに熱を入れなくてもいいだろ」
「負けっ放しで終わるのは嫌なんだ」
「しょうがないな……」
「もちろん、手を抜かれるのはもっと嫌だがな」
心を読まれた。

☆

そんなこんなで二週間。
他の依頼をこなしながらではあるものの、かなり精力的に特訓に励んだ俺と桜庭。
勝率は俺が六割、桜庭が四割といったところか。
「お祝いのケーキを用意して待ってるから、頑張ってきてね」
との白崎の声を背に、俺と桜庭はチャトランガ部の面々と合流し、大会会場へと向かった。
学園校門のすぐ先にある駅から電車に乗り、乗り継いで一時間半。
チャトランガの大会会場は、そんなに大きくない街の商店街。
古ぼけた、小さな喫茶店に併設された集会所のようなところだった。
「腕が鳴るな。どんな相手なんだろう」
「あ、ああ」
一方の桜庭は、そんな会場のみすぼらしさなど気にならない様子で、対戦相手のことを考えているようだった。
その集中力が羨ましい。
すぐにチャトランガ部の部長に手招きされて中に入る……と、意外にも会場は熱気に満ちていた。
明らかに狭いからだけど。
剥き出しの蛍光灯の下に、会議机とパイプ椅子。
それを、その場に居合わせた大会参加者達が自ら並べていた。
「これは……」
桜庭の視線を追って壁に貼られた模造紙を見遣る。
手書きのトーナメント表は二段しかなく、つまり、大会に参加するチームはたったの四チームであるらしい。
地方大会なんてこんなものか。
「どのチームも選ばれた強豪だ。数が少ないからといって油断はできない」
部長はそう言いつつも、どうやら顔見知りらしい対戦チームのメンバーに挨拶をしたり、にこやかに握手をしたりしている。
明らかに年齢が高いチームもあり、学生の大会というわけではないようだ。
「数合わせの助っ人と思われるのも癪だ。一回くらい勝ってみるというのはどうだ、覧？」
「たった半月の付け焼き刃でどうなるとも思えんが」
「だが、わざわざ遠くまで負けに来ただけというのもつまらないじゃないか」
「……そりゃそうだ」
互いに健闘を誓って目配せをする。
大会役員の長ったらしい話などはまったく無く、しばらくすると和やかに一回戦の対戦が始まった。
こちらが五人。
相手も五人。
聞けば、隣の県の郵便局員を中心とした社会人のサークルらしい。
『お願いします』
と声を揃えて頭を下げ、俺のチャトランガ初公式戦が静かに幕を開けた。
「参りました」
俺の前に座った、禿頭のゴツいおっさんがぺこりと頭を下げる。
あれ？
この人、桜庭よりも弱かったんじゃなかろうか。
とりあえず俺は勝ったらしい。

盤面への集中を解いて横を見ると、チャトランガ部の面々も次々と勝利を収めていた。
「く、くぬ……」
隣で顔を真っ赤にしている桜庭だけが、数分後
「まいりま、し、た……」
と頭を下げた。

「さて、次はいよいよ決勝だ。平常心で臨もうじゃないか。それにしても初試合の……筧君だっけ？　が勝ったのには驚いた」
部長の声に合わせ、部員の二人がパチパチと拍手をしてくれる。
「対戦相手の人も、俺みたいに人数合わせの助っ人だったんじゃないでしょうか」
「その可能性もあるな。桜庭さんもよく頑張ってくれた。ありがとう」
黙って頭を下げる桜庭。
しかしその拳は固く握りしめられ、悔しさに身を焼いているのが俺にはひしひしと感じられた。
程なく、決勝の開始が告げられる。
舞台は同じく狭い集会所。
一回戦……というか準決勝で負けたチームのメンバーが観戦に加わっており、あまり人目に囲まれることに慣れていない俺はにわかに緊張してきた。
しかし、隣の桜庭はじっと目を閉じて腕を組み、集中力を高めて対局が始まるのを待っている。
桜庭の周りだけ、山奥に湧く泉のように、静かで清浄な空気が満ちていた。
『お願いします』
五つの盤を挟んで十人が頭を下げたかと思うと、先手が決まっていた桜庭は「ビシッ！」と駒音高く一手目を放った。

……目の前の盤面では、一進一退の攻防が続いている。
一回戦で対局した禿頭のおっさんとは違い、決勝の対戦者は科学者といった風貌の人だった。
ふう、と一つ息をついて対戦チームの他のメンバーを見渡すと、皆が眼鏡をかけた秀才風のチームであることが分かる。
確か、「何とかラボ」という人工知能を開発している人たちだと部長が言っていた。
そして我らがチャトランガ部のメンバーも、眉間を揉んで悩んだり、腕を組んで唸ったりしている。
どうやら皆、苦戦を強いられているようだ。
……しばらくすると、「参りました」の声が三回聞こえた。
うち一回は相手の主将と当たった部長のもの。
チャトランガ部の正式部員はここまで二勝一敗のようだ。
そして、俺の対局も終戦を迎えようとしていた。
「……参りました」
頭を下げる。
初参加だということを考えれば、十分に役目を果たしたと言えるはずだ。
そして俺が負けたことで、決勝戦、チームとしては二勝二敗。
我らが汐美学園チャトランガ部の勝敗は、今この瞬間、隣の桜庭にかかっている。
「……むぅ……」
厳しい視線。
居合いの達人が、刀の柄に手の平を載せ、いつ抜くかを計っているかのような。
盤面はほぼ互角のように見える。
桜庭は、いつの間にか手に持っていた扇子でゆっくり小刻みに頭へ風を送る。
「！」
パチンッと扇子を閉じ、
「見えたっ！」
そう言うと、桜庭は駒をむんずと掴み、盤にバチィッ！　と叩きつけた。

☆

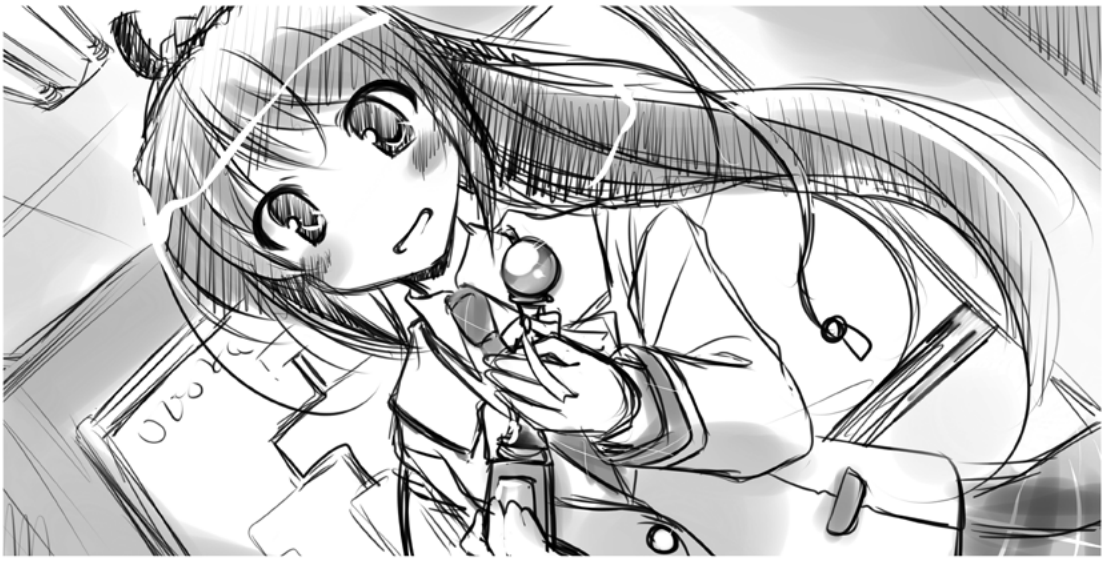
「ありがとう！　ありがとう！」
「これで来期の予算も安泰だ！」
感激のあまり涙を流すチャトランガ部の部長と他部員二人に揉みくちゃにされる桜庭。
優勝がかかった一局だったことは勝ってから知ったようだが、桜庭の活躍により汐美学園チャトランガ部は見事四チームの頂点に立った。
「桜庭、勝てて良かった」
「ああ。これで私も筧も今日の公式戦は一勝一敗だな」

冷静を装っているが、桜庭の鼻息はふんすと荒い。
まあ、あれだけ一生懸命に特訓したんだ。こういう絵に描いたような勝利があってもいいだろう。たった四チームだけど。

「それでは、団体戦で優勝した汐美学園チャトランガ部には、優勝トロフィーが贈られます。皆さん拍手を！」
集会場に響く拍手の中、部長に押されて前に出た桜庭が、嬉しそうに照れながらトロフィーを受け取る。
部室に並んでいたものと同じ、控えめな大きさのものだ。
「これで汐美学園チャトランガ部さんは、ちょうど十回目の全国制覇となりました。おめでとう！」
全国……？
全国制覇だって！？
俺達が日本一になったって事か！？
会場にいる全員の祝福を受けながら、桜庭も目を見開き、口を開けている。
「ん、ああ、団体戦は参加団体も少なくてな」
部長は事もなげにそう言った。

「驚いたじゃないですか！」
「聞いてないですよ」
表彰式が終わってから、部長に詰め寄る俺と桜庭。
「まあまあ。何はともあれ、これで二人の名前も日本のチャトランガ史に残ることになった。ついでに正式な部員になって活動してみる気は無いか？」
ほんの一瞬だけ、桜庭が惹かれたのを感じる。だが。
「いえ、私達は図書部としての活動がありますから」
きっぱりと断った。
俺も同意を表して頷く。
「そうか。残念だ」
「また来年、助っ人が必要だったら声をかけて下さい。一応、俺達二人は経験者でもあるわけですし」
「全国大会制覇の経験もありますよ」
にこっと笑んで扇子を閉じ、集会所の出口へ向かう桜庭。後を追う俺。
が……チャトランガ部のメンバーは動く素振りがない。
「……えっと、帰らないんですか？」
「ああそうだ、午後から個人戦があるんだけどお二人さんもエントリーしていかないか？」
『いえ結構です』
声を揃えて会場を後にし、俺と桜庭は白崎の手作りケーキが待つ部室への帰路についた。

END



今度はファンディスクで
図書部活動！
大図書館の羊飼い
a good librarian like a good shepherd
-Dreaming Sheep-
原画・べっかんこう／シナリオ・榊原拓 ほか

▲得意の手料理を主人公に振る舞おうと楽しげにフライパンを振るうつぐみ。愛情が最高のスパイスです。

▼同居生活の一幕。ワイシャツ一枚で洗面所からおはようの声をかけてくれるのは、愛しの彼女、佳奈すけです。

from STAFF

2013年1月に発売し大好評を博した「大図書館の羊飼い」。そのファンディスクの制作が決定しました。
これまでは単一作品でのファンディスクの事例がなかったオーガストですが、アンケートにおいて、歴代作品の中で特にファンディスクをご期待頂く声が多かったため、制作に踏み切ることに致しました。
メインヒロインやサブヒロインたちの甘々な蜜月生活は勿論、その後の生徒会や、図書部員の活躍の舞台裏も描かれます。
アニメ化も決定しますます人気上昇中の「大図書館の羊飼い」。続報をお待ちくださいませ。

大図書館の羊飼いファンディスク、鋭意開発中。ご期待ください!!

http://august-soft.com/

画像・文字情報はすべて開発中のもので、変更の可能性があります。

速報!

大図書館の羊飼い

a good librarian like a good shepherd

- 放課後しっぽデイズ -

原画・夏野イオ／シナリオ・榊原拓 ほか
for WindowsXP/Vista/7/8

野良猫の写真撮影だけ目的とする実にニッチな活動に勤しむ猫写真部。部員はのぞみと主人公の2名だけ。そこへ田舎から家出同然にやってきた朔夜が加わり、波瀾の日々が始まる!!…のかな?

オーガスト公式スタッフによる、「大図書館の羊飼い」のスピンアウト作品が制作進行中です。図書部の面々も顔を出しつつ繰り広げられる、お手軽に楽しめるサイズの一品。夏コミ頃にお披露目できればと考えております。ご期待頂ければ幸いです。

榊原拓（以下「榊」）：さて、『大図書館の羊飼い』を1月に発売してから初の対談です。
べっかんこう（以下「べ」）：ようやく発売できましたね。お待たせしました。
榊：今回はHP経由の方が多いですが、葉書も含めてご感想も続々と届いています。
べ：アンケートの中では、「ところでやっぱりブルマの方がよかったでしょうか」という項目が面白いですよね。
榊：これはるね監督が考えた質問です。
べ：今作では短パンにしたので、受け入れてもらえるかが心配でした。水着もいわゆる旧スクを今回は使ってないんですよ。
榊：ちなみにアンケート結果では、何となく想像してたよりはブルマ派が多くない印象です。短パンとほぼ同数。
べ：ブルマといってもピンとこない世代の方もいるんでしょうね。まあ今作の学園の雰囲気に合わせたということで、今後はまた作品のカラーに合わせて検討したいなと思ってます。
榊：アンケート結果といえばファンディスク。これは圧倒的に一作ごとという人が多かったです。
べ：続きが見たいと言っていただけてるわけで、ありがたいお話だと思います。
榊：ファンディスクを作るかどうかというのも、作品によるんですよね。作りやすい作品と作りにくい作品というのもあるし。
べ：穢翼なんかはあれはあれでまとまってるんで、続きは難しいですね。『大図書館の羊飼い』は比較的作りやすいかなと思います。
榊：さて、オフィシャルWEBサイトでは人気投票も開催しました。鈴木が圧倒的で驚きましたね。
べ：話題にしやすいネタも持ってましたし、親しみやすいキャラだったということなんでしょうか。
榊：シナリオチーム的には、ちょっと新しい試みを盛り込んだキャラクターだったので、人気が出てほっとしています。キャラを作ってる段階ではちょっと不安な部分もあったので。
べ：小太刀もがんばりましたね。どちらもデザインで苦労したキャラなので、人気が出たのは良かったです。
榊：メインヒロイン5人の中で、一番胸がないキャラとあるキャラがワンツーという結果ですが。
べ：胸の大小じゃないということなんですよ、きっと。とか言いつつサブキャラの中では、嬉野さんが大人気でした。
榊：嬉野さんはエキセントリックな部分と可愛い部分のバランスがとても難しく、シナリオライター泣かせのキャラだったりします。
べ：サブキャラは例によってある程度自由なので、こちらは結構好きにやらせてもらいました。テストプレイしてても嬉野さんは面白い動きをしてたので人気にも納得です。
榊：多岐川さんは人気投票だとちょっとアレでしたけど。
べ：まあ仕方ないと思います。敵役でしたし。ただ逆に言えば、プレイしたユーザーさんが図書部の部室を居場所として受け止めてくれてたんだな、とも。
榊：個人的には小生意気で可愛い奴めと思っているんですが。
べ：僕も好きですよ。ちょっと苛めたくなりますね(笑)

榊：というわけで、いろいろありまして、ファンディスクを作ることになりました。
べ：ファンディスクはご要望をたくさんいただきました。作ってる方としても、一作でキャラクターたちとサヨナラするのはしのびないですし、良かったです。

2013.4.10　21:50　社内にて

POSTSCRIPT－あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

さて、3月に『大図書館の羊飼い ボーカルコレクション』を発売したのに続き、5月24日には『大図書館の羊飼い オリジナルサウンドトラック』を発売する予定です。
全BGMをリマスタリングし、DJ SHIMAMURAをはじめとした著名アーティストによるアレンジバージョンも収録致します。
どうぞよろしくお願いします。

そして当冊子でもご案内しております通り、オーガストが次に作るソフトは『大図書館の羊飼い』のファンディスクとなりました。
完全新作よりは、多少ではあるものの早く皆様にお届けできるかと思っています。
もうしばらく、『大図書館の羊飼い』の世界におつきあい頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガスト/ARIAをよろしくお願い致します。

2013年春　オーガスト/ARIAスタッフ一同

オーガストオフィシャルハンドブック
2013年春号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載!
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

http://august-soft.com/
http://aria-soft.com/

オーガストオフィシャルハンドブック
2013年春号

AUGUST

(C)AUGUST All Rights Reserved.

OHB-130505